

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成18年度 経済産業大臣賞 受賞	受賞者名
	キヤノン株式会社 化成品事業環境企画部
	所在地
	東京都大田区

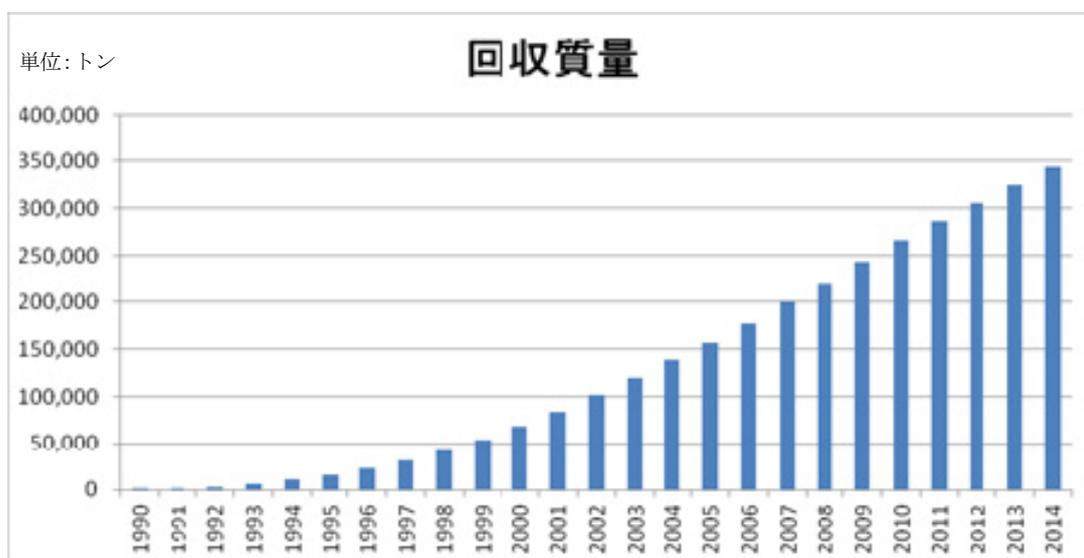
1. 活動継続 あり

- 活動は継続しており、今年で 25 周年を迎えた。
この活動の歩みを弊社ホームページの特設サイトで、公開している。
<http://canon.jp/ecology/cartridge-sp/index.html>



- 実績も以下の様に、順調に拡大している。

累積回収質量	： 2005 年末	約 15 万トン	⇒ 2014 年末	約 34 万トン
累積新規資源抑制量	： 2005 年末	約 9 万トン	⇒ 2014 年末	約 23 万トン
累積 CO2 削減量	： 2005 年末	約 24 万トン	⇒ 2014 年末	約 50 万トン



2. 活動の広がり あり

- ・回収対象国は、2006年の21カ国から現在、24カ国に拡大している。
- ・2009年、フランスに自動リサイクルプラントを導入
- ・2010年、アメリカに自動リサイクルプラントを導入

3. 活動の進化 あり

- ・2010年より「みらいにつなぐふるさとプロジェクト」を立ち上げ、回収数量に応じた寄付を行う事で、国内さまざまな地域においてNPOや地域住民の方と連携した環境保全活動や、「自然環境・生き物・農業」をテーマとした環境学習を実施している。（日本）
- ・2011年から小学生向けに、トナーカートリッジリサイクルを題材にした「環境出前授業」を実施している。（日本）



- ・更に2015年よりトナーカートリッジリサイクルプログラムに経済産業省が主導する「どんぐりポイント制度」を導入し、カートリッジの回収とリサイクル工程で発生するCO2排出をゼロ化している。（日本）
- ・2015年5月、日本で新しい自動リサイクルシステムが稼働



・他の表彰・受賞履歴

- 2007年：第4回エコプロダクツ大賞「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）」
- 2008年：第17回地球環境大賞「フジサンケイグループ賞」

4. 今後の計画

- ・「資源循環型社会」の構築に貢献するために、この活動を継続、進化させていきたい。

【表彰概要】

概 要	
受賞者名	キヤノン株式会社 化成品事業環境企画部
所在地	東京都大田区
活動実績	
<p>・トナーカートリッジの回収活動を 1990 年に日本・ドイツ・アメリカで開始。その後対象地域を拡大し、現在では世界 21 ヶ国で回収を行っている。</p> <p>・回収したトナーカートリッジの部品リユースや材料リサイクルを、日本・中国・アメリカ・フランスで行っている。トナーカートリッジを分解し、部品やプラスチックを清掃・リサイクルする際の検査は新品と同基準で行われ、合格した部品・プラスチックを新品のトナーカートリッジに再使用する。それ以外の部品・材料もマテリアルリサイクル、エネルギーリカバリーすることで 100%再資源化し、埋立廃棄は行わない。</p> <p>・トナーカートリッジはプリンタの心臓部であり、その部品には高い品質レベルが求められるが、16 年に渡って部品リユース技術を蓄積してきた結果、リユースできる部品の数を増やし、新規に必要なとする資源を抑制した。</p> <p>・2005 年までにキヤノンがリサイクルしたトナーカートリッジ量は累積で約 15 万 t に上り、その分の廃棄物を削減した。部品のリユース・材料（プラスチック・鉄・アルミ・銅など）のリサイクルを行うことで、新規に必要なとする資源を累積で約 9 万 t 抑制した。ライフサイクルアセスメントによる CO₂ 換算で累積約 24 万 t の新規資源／加工エネルギーを抑制した。</p> <p>・プラスチックを同等品質で同製品に再使用する「クローズドリサイクル」を推進。これを人手ではなく、トナーカートリッジの破砕、材料分別を自動で行う業界初のリサイクルプラントを導入して実現している。</p>	